

< 第7分科会 > 研究・研修

研究課題 学校の教育力を向上させる研究・研修の推進

分科会の趣旨

大きく社会が変動する中、学校教育も、多岐にわたる課題に直面しており、その解決に向けた国民の期待は大きい。その期待に応えるために、学校は、学校教育法に示された「学力」の三要素を基盤に、「共に生きる知恵を磨き 心結ぶ未来社会をつくる 誇り高き子ども」を育むことが重要である。

学校教育の使命・責務を果たすためには、質の高い教育を実践する学校づくりが必要であり、教職員一人一人に確かな指導力が求められている。この指導力とは、教科等の指導・生徒指導・学級経営などの能力に加え、危機管理能力や保護者への対応力等も含めた総合的なものである。また、教職員には、教職や教育に対する強い情熱、責任感・使命感や児童への温かく細やかな愛情等も不可欠である。

そのため、校長は、自らの資質能力の向上を図り、確かな先見性、洞察力を身に付けるとともに、個々の教職員の特性と力量を見極め、個に応じた課題と具体的な解決への展望をもたせ、教職員の資質能力、学校運営への参画意識等を高める研究・研修を強力に推進する必要がある。

本分科会では、教職員の資質能力を高め、展望や参画意識をもたせ、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立とその推進について、具体的な方策を明らかにする。

研究の視点

(1) 教員の資質能力を高める校内研究・研修の推進

学校の教育力を高めるには、教員一人一人の指導力の向上とともに、学校教育目標の実現に向けて協働する質の高い教員組織の育成が重要である。

教員の資質能力を向上させる方策の中核は、研究・研修の充実であり、学校づくりの柱ともなる。とりわけ、校内での職務を通して行う研究・研修（OJT）を通じて、教員が相互に指導や援助を行いながら磨き合うことは、個人と同時に学校全体としての指導力を高めるとともに、協働する教員組織の育成にも直結するものである。

校長は、意図的かつ計画的に校内研究・研修を推進し、学校の教育力を高めることが求められている。その際、学級経営力、授業力、経営参画意識等について、教員個人の課題と学校の課題を的確に把握し、調和を図りながら、校内研究・研修を充実させていくことが必要である。

このような視点に立ち、教員の資質能力を高める校内研究・研修を推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 教職員に展望や参画意識をもたせる研修の推進

教職員の世代交代が進行する中、優れた指導力や職務遂行能力と使命感を兼ね備えた教職員を育成し、学校の教育力を維持・向上させることが急務となっている。

教職員には、自己の資質能力を高め職務に生かしていくことや、また、社会からの要請や教育界の動向を踏まえた上で、将来への展望と学校経営への強い参画意識をもたせる必要がある。

そこで、校長は、教職員一人一人の経験や分掌を踏まえた研修の在り方を追究し、さらに研修の成果を生かしながら積極的に職務に取り組みせることが求められる。その際、適切な指導・助言のもと、ライフステージに応じた研修や教職員人事評価制度とも関連づけていくことが大切である。

このような視点に立ち、教職員に展望や参画意識をもたせる研修を推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。